

駿河台大学 グランドデザイン 2021

—駿大ブランドの構築・強化に向けて—

2016年11月26日

学長 吉田恒雄

1. はじめに

(1) 「駿河台大学グランドデザイン 2021」策定の趣旨

現在、わが国の大学は、2018年問題に象徴されるような今後の18歳人口の急激な減少、2020年度からの導入が予定されている新方式入試への対応、高大接続改革等における大学教育の質的転換の要請に加えて、生産年齢人口減少への対応としてのグローバル人材や高度の実践力を備えた人材の育成も産業界から強く求められています。さらに、地方創生施策の推進において、大学が果たす役割への期待も大きくなっています。

こうした状況を受けて、2012年に策定した「駿河台大学グランドデザイン」の完成年度を迎えた現在、高等教育をめぐる社会状況の変化に対応するとともに、グランドデザインの検証から明らかになった諸課題を点検し、本学の「教育の質の向上」に向けて新たな目標と計画を示し、「駿河台大学グランドデザイン 2021」（以下、グランドデザイン 2021と表記します。）として、2017年度以降の5年間に達成すべきこととしました。折しも今年2016年は本学の建学から30周年に当たります。このグランドデザイン 2021を基点に、これまでの30年間に培ってきた本学の実績をさらに伸展し、本学のミッションを果たします。

(2) グランドデザイン 2021の目標：駿大ブランドの構築・強化

駿河台大学の「教育の質の向上」を実現するには、教育内容、教育方法、教育組織、教育環境の維持発展のための基盤の充実が不可欠です。そのためには毎年度の入学定員の確保、収容定員の充足、中途退学者の減少、高い就職率の維持といった課題を克服しなければなりません。この目標に向けて、本学の教学全般にわたる改革・改善を計画的に行い、駿大ブランドを構築することが必要になります。

これらの取組みにより、本学の教育に対する高校生、教育関係者、地域社会の信頼を高め、これをもって志願者増に繋げ、大学運営基盤の安定を図ることをグランドデザイン 2021の目標とします。

2. 駿河台大学のミッション

本学は、建学の理念である「愛情教育」に基づき、埼玉県西部の地域社会に根ざした大学として、以下のミッションを果たします。

① 地域の中核的人材の育成

本学は、グローバル化の著しい現代社会における地域社会の諸活動の中で中核的

役割を担う人材を育成することによって、高等教育機関としての責務を果たします。

② 地域の発展への貢献

本学は、地域社会の諸課題を調査研究し、その成果を還元することにより、地域社会の発展に貢献します。

③ 地域の活性化への貢献

本学は、「地域の知」の核として、地域に学びの機会を提供することにより、地域社会の活性化に貢献します。

3. 駿河台大学が目指す大学像：「駿大ブランド 5つの力」

本学は、上記のミッションを果たすために、本学が培ってきた「強み」を活かし、現在の教育活動、研究活動、地域貢献活動をさらに発展させ、駿大ブランドを構築・強化します。

(1) 「教育力」の駿河台大学：きめ細かい教育

駿台予備学校を始めとする学校法人駿河台学園が永年にわたり形成してきた教育理念、教育情報、教育方法等を活用し、駿河台学園との緊密な連携のもとに、「きめ細かい」教育を行います。

(2) 「就業力」の駿河台大学：目配りの行き届いた就職支援

教職員が一体となった、目配りの行き届いた就職活動支援により、学生ひとりひとりの個性と意向にあった就職を実現します。

(3) 「学生支援力」の駿河台大学：高い学生満足度

明るく美しいキャンパスで、学生が自己肯定感をもって学習し、学生生活に打ち込めるよう、学生の主体的な活動を支援し、学生の居場所を充実し、経済的支援を行います。

(4) 「地域力」の駿河台大学：地域との協働

「地域を学ぶ」、「地域で学ぶ」、「地域から学ぶ」、をテーマに、自治体や企業、団体、市民の協力を得て実践的な教育を行い、「駿河台大学社会人基礎力」を身に付けます。あわせて、生涯教育の機会提供により地域貢献に努めます。

(5) 「研究力」の駿河台大学：研究成果の地域還元

教員のもつ高度の専門性を活かし、優れた研究成果を地域社会に還元します。

4. 駿大ブランド構築・強化のための具体的取組み

(1) 駿大ブランドとしての「愛情教育」

本学は、「愛情教育」の理念に基づき、「ひとりひとりの学生をありのままにみつめ、ひとりひとりの夢とその歩みを支援し、自立へと促す教育」を実践します（「駿河台大学憲章」より）。

(2) 「教育力」の駿河台大学：きめ細かい教育

本学の教育は、上記のミッション「地域の中核的人材の育成」に向けて、「社会人基礎

力」(注)及び専門的知識・技能の活用力を身につけること目標に、以下の取組みを行います。

① 新カリキュラムに基づく教育の実施

教育目標の実現に向けて、2017年度施行の新カリキュラムに基づく教育を確実に実施します。

② 3ポリシーに基づく教育の実践

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)、学生受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づく教育を実践します。

③ 教育成果の把握、分析に基づく教育改善

個々の授業の教育成果を図る指標や方法を開発・普及し、各授業が目標に沿った成果を達成しているかどうかを検証します。さらに、PDCAサイクルにより、カリキュラムの適切性を点検評価し、教育改善を図ります。

④ 主体的学びの推進

学生が主体的に学び、幅広い教養、社会人基礎力及び専門基礎学力を習得するのに適した授業方法(アクティブ・ラーニング)を全教員が共有し、「教育力」を向上させます。あわせて、学習時間確保の方策を検討します。

⑤ 学習支援の強化

学習相談等を通じて学生の学習を組織的に支援します。

⑥ 初年次教育の充実

入学準備セミナーの全学部実施、導入教育の充実、補習授業、学習支援の実施等により、1年次生への教育をさらに積極的に行います。

⑦ グローバル教育の推進

アクティブ・ラーニングや補習授業を含めた授業等により、外国語能力の向上を図ります。駿台甲府高等学校、駿台グループ専門学校、優良日本語学校との連携により外国人留学生の入学を促進するとともに、外国人留学生への生活支援の充実、留学生と日本人学生の交流を図ります。また、外国大学への留学を促進するため、留学情報の提供、外国語能力の向上、外国語検定試験受験指導等の支援を強化します。

⑧ スポーツ教育の推進

強化すべきクラブを重点化して支援します。2020年東京オリンピック・パラリンピックに対して、大学として、地域と連携して積極的に関与します。さらに、2020年以降のスポーツ振興のあり方を検討します。

⑨ 大学院研究科組織の点検

大学院における人材育成の社会的要請に対応して、科目編成、授業内容、授業方法のみならず、大学院組織のあり方の検討を開始します。

⑩ 教育環境の整備

学生の主体的学びを支援するため、授業とメディアセンターとの連携を強化すると

ともに、「ラーニング・コモンズ」の整備・活用、3404 教室の有効利用を図ります。さらに、アクティブ・ラーニングを幅広く行うことができるよう教室を改修します。

(3) 「就業力」の駿河台大学：目配りの行き届いた就職支援

① キャリア教育の充実

学生が自らの将来像を自覚的に捉えキャリア形成できるよう、1年次から体系的かつ多様なキャリア教育を推進します。

② 就職活動支援の強化

学生の希望や将来のキャリア形成の意向を十分に把握し、個々の学生に適した就職を教職員の協働により支援します。

③ 資格試験、公務員試験受験指導の推進

学生の就職に資する資格試験受験や公務員志望の学生に対する指導を積極的かつ組織的に進めます。

④ 留学生の就職支援の強化

キャリアセンターとグローバル教育センター及び学生支援課との連携を密にし、留学生の就職活動をきめ細かく支援します。

⑤ 国際インターンシップの推進

東南アジアを中心に、国際インターンシップの実施に向け、体制を整備します。

(4) 「学生支援力」の駿河台大学：高い学生満足度

① 学生の主体的活動の支援

学生が主体的に大学生活を過ごすことができるよう、クラブ活動、ボランティア活動や学生の自主的活動の企画・実施を積極的に支援します。

② 学生の居場所の改善・充実

学生が大学生活を通じて自己肯定感を育み、自己実現を図れる場所、仲間と楽しく充実した時間を過ごすことできるスペース等、アメニティの整備・改善をさらに進めます。

③ 中途退学者の減少

i) 経済的支援の充実

給付型奨学金制度を充実し、経済的理由による中途退学の防止に向けた経済的支援を充実します。

ii) 健康上のサポートを必要とする学生に対する支援

健康相談室におけるカウンセリングや保健指導等を強化し、健康上のサポートを必要とする学生が学業に専念できるよう支援します。

iii) 中途退学者等のデータの分析

中途退学者、休学学生、長期欠席学生等のデータを収集・分析し、その成果を活用して中途退学を防止します。

iv) 1・2年次生に対する支援

1年次生について、クラス担当教員（FA）と職員（CA）が協働して、学生支援課

と連携した支援をさらに充実します。2年次生に対するCAの活用については、中途退学の原因分析等を勘案して支援のあり方を検討します。

④ 障がいをもつ学生への支援の充実

発達障がいを含め、障がいをもつ学生に対する支援を適切かつ組織的に行います。

(5) 「地域力」の駿河台大学：地域との協働

① 「地域科目群」の活用

2017年度施行のカリキュラムにおける「地域科目群」を活用した教育を行います。

② 自治体・企業等と連携した教育の多面的展開

自治体、企業等と締結した協定に基づいて開講している寄付講座をさらに発展させ、地域科目の充実及び各学部の専門分野における実践的な教育プログラムの導入を図ります。

③ 生涯教育の充実

現在の「喜樂学」をはじめ、多様な公開講座を開設し、地域における生涯教育を充実します。

④ 地域に関する研究の推進

「知の拠点」として、地域が抱える課題の解決に向けて、地域と共同して調査研究を行います。

⑤ 高大連携授業の充実

連携先高校の意向を踏まえ、高校生がさまざまな学びを経験することができるよう、高大連携授業を見直します。

(6) 「研究力」の駿河台大学：研究成果の地域還元

① 研究環境の改善

教員の研究活動を活性化するため、委員会業務等の学内業務を見直し、研究時間を確保できる環境を整備します。

② 研究費制度の活用

個人研究費制度を見直し、研究費を適切に配分することにより、研究活動に積極的に取り組む教員が十分に研究できるようにします。あわせて、特別研究費、教育研究助成費、出版助成費についても、研究活動の活性化に繋がるよう見直します。

③ 教員の国際交流の推進

海外の大学との教員の人事交流に関する協定の締結に向けて、準備を進めます。

④ 研究成果の地域還元

本学教員による研究成果を、シンポジウムや公開講座等を通じて地域に提供し、地域の活性化に貢献します。

⑤ 外部資金獲得への支援

文部科学省科学研究費補助等の外部資金の獲得を奨励し、申請に関する情報の提供、申請手続きの支援を充実します。

5. 学生募集力の強化

(1) 駿大ブランドの充実と活用

3で述べた駿大ブランドをもって「教育の質の向上」を図り、高校生、教育関係者、地域社会の信頼を獲得することにより、駿河台大学での学びを希望する志願者を増やし、入学定員及び収容定員の確保に繋がります。

(2) 入試データの分析と活用

志願者動向をはじめとする入試データを、IR 実施委員会及び入試広報部を通じて分析し、志願者確保の資料として活用します。

(3) 効果的な入試広報活動の展開

これまでの広報手段をさらに検証し、各種媒体の特性を見極め、時宜を得た広報活動を展開します。

(4) 秋学期入学制度の創設

2017年度のカリキュラム施行にあわせて、主に外国人留学生を対象に秋学期入学を可能とするよう入試制度を一部見直します。

(5) 新方式入試への対応

高大接続改革における入試制度の改革に対応するため、学力の3要素を的確に判定できる制度を導入し、受験生が自己の能力を適切にアピールできるようにする機会を与える等、同改革の趣旨及び本学のアドミッション・ポリシーに合致するよう入試方法を見直し、新方式入試を実施します。

6. 学部・学科の再編

社会の動向、全国及び本学の受験生の志願状況等について、IR 実施委員会および入試広報課の分析に基づき、コース制の再編を行うとともに、新たに設置すべき学部・学科の検討を行い、可能な限り早期に新学部・学科を創設します。

7. 教学ガバナンスの推進

本学のミッションを果たし、駿大ブランドを構築・強化するため、以下の取組みを行い、教学ガバナンスを推進します。

(1) 自己点検評価の実施及び外部評価の受審

本学が高等教育機関としての責務を果たし、「大学の内部質保証」を確実なものとするため、改革の方向性、内容、方法、成果等を、外部関係者の協力を得ながら点検します。また、定期的に外部機関による評価を受審します。これらの点検作業をもとに、教学全般にわたりPDCAサイクルによる改善を継続します。

(2) 適切な情報公開

本学の教学に関する取組み状況を、大学ホームページや「大学ポートレート」を通じ

て公開し、社会に適切に説明する等、本学の情報公開を促進します。あわせて公表内容を定期的に点検します。これにより、学生、父母、志願者、高等学校関係者、企業、団体、地域社会に対して本学の取組みに関し、十分な理解と協力を得ます。

(3) 「教職協働」の推進

本学が取り組むべきプロジェクトについて、その内容に応じて、教員、職員それぞれが「委員」として参画し、協働してプロジェクトを企画・実施します。

(4) 効率的な教学運営体制の確立

①委員会組織の見直し

教職員が教育・研究・学生支援等の業務を十分に遂行するとともに、学内業務を効率化するために、委員会の組織・内容・所管事項の見直しや委員会の整理統合を継続して行います。

②教育力の組織的向上に向けた FD・SD の推進

全学及び学部・センターの研修（FD・SD）を組織的・計画的に運営し、全教職員がこれに出席し、教学改革の意義、内容、方向性、成果等を共有し、改善に取り組む意識、知識及びスキルを高めます。

(5) 教員評価制度の整備

教育、研究、管理運営、社会貢献を積極的に行っている教員の実績を評価し、本学の改善を促進するために、教員評価制度を整備・実施します。

(6) グランドデザイン 2021 による改革の実施

① 学部、大学院研究科及び共通教育センター等並びに事務部門のアクションプランを通じて、グランドデザイン 2021 に掲げられた改善項目を P D C A サイクルにより確実に実現します。

② グランドデザイン 2021 の開始後 3 年までの成果をもとに、その改善状況を点検し、必要に応じて修正を加えます。

8. おわりに

本学が高等教育機関としての役割を的確に果たすためには、地域社会の支援を得ながら、教職員一体となって「教育の質の向上」に取り組んでいくことが求められます。教職員が本学の課題に対する認識を共有し、それぞれの責務を自覚して着実に業務を遂行することが駿大ブランドの構築・強化につながり、本学のミッションが実現されると確信し、グランドデザイン 2021 の達成に向けて取り組みます。

注) 駿河台大学社会人基礎力は、以下の 5 つの力から構成されています。

(1)基礎的な力

文章を適切に読み解くと同時に、論理的で、かつわかりやすい文章を書くことができます。さらに、目的に向けて情報源と情報収集方法を適切に選択し、必要な情報を集めることができます。

(2)考える力

さまざまな角度から物事をみつめ、広い視野から筋道を立てて考えることができます。また、相手の話す内容、あるいは自分や相手の置かれている状況を適切に理解しながら、既存の枠組みを超えた新たなアイデアを生み出すことができます。

(3)行動に移す力

目標に向かって行動を起こすことの価値を理解した上で、自ら行動を起こし、必要に応じて課題に柔軟に対応しながら、やりきることができます。

(4)協働する力

自分が相手に伝えたい内容をわかりやすく表現し、伝えるとともに、相手の要求を適切に理解して、それに応じたり、自分の意見を適切に主張したりすることによって、良好な人間関係を構築することができます。さらに、集団の中で自分や周囲の役割を適切に理解し、互いに連携・協力して物事を行うことができます。

(5)総合的な力

自分や自分の身のまわり、あるいは社会のあるべき姿と現状を適切に認識し、問題意識を持つことができます。加えて、実現可能な目標を設定し、そこに至る方策を立てるなど問題解決に向けての努力を続けることができます。

グランドデザイン
2012～2016年度

グランドデザイン2021
2017～2021年度
の新たな目標と計画

建学の理念
「**愛情教育**」

「愛情教育」に基づき、埼玉県西部の地域社会に根ざした大学として「ひとりひとりの学生をありのままにみつめ、ひとりひとりの夢とその歩みを支援し、自立へと促す教育」を実践します。

本学のミッション

①**地域の中核的人材の育成**
グローバル化の著しい現代社会における地域社会の諸活動の中で中核的役割を担う人材を育成します。

②**地域の発展への貢献**
地域社会の諸課題を調査研究し、その成果を還元します。

③**地域の活性化への貢献**
「地域の知」の核として、地域に学びの機会を提供します。

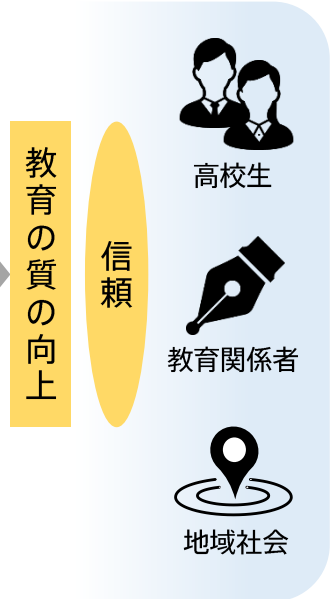
大学を取り巻く
環境・諸課題

- ▶18歳人口の急減
- ▶2020年新方式入試
- ▶大学教育の質的転換
- ▶グローバル人材・高度の実践力を備えた人材育成
- ▶地方創生施策の推進等

【目指す大学像】 個性と夢を尊重し、ともに歩む大学

駿大ブランド 5つの力	1.教育力の駿大 きめ細かい教育	①新カリキュラムに基づく教育の実施 ③教育成果の把握、分析に基づく教育改善 ⑤学習支援の強化 ⑧スポーツ教育の推進	②3ポリシーに基づく教育の実践 ④主体的学びの推進 ⑦グローバル教育の推進 ⑩教育環境の整備
	2.就業力の駿大 目配りの行き届いた就職支援	①キャリア教育の充実 ③資格試験、公務員試験受験指導の推進 ⑤国際インターンシップの推進	②就職活動支援の強化 ④留学生の就職支援の強化
	3.学生支援力の駿大 高い学生満足度	①学生の主体的活動の支援 ③中途退学者の減少* <small>*経済的支援の充実、健康上のサポートを必要とする学生に対する支援、中途退学者等のデータの分析、1・2年次生に対する支援</small>	②学生の居場所の改善・充実 ④障がいをもつ学生への支援の充実
	4.地域力の駿大 地域との協働	①「地域科目群」の活用 ③生涯教育の充実	②自治体・企業等と連携した教育の多面的展開 ④地域に関する研究の推進 ⑤高大連携授業の充実
	5.研究力の駿大 研究成果の地域還元	①研究環境の改善 ④研究成果の地域還元	②研究費制度の活用 ③教員の国際交流の推進 ⑤外部資金獲得への支援

- 「教育の質の向上」実現のための基盤充実**
- ①入学定員の確保・収容定員の充足 ②中途退学者の減少 ③高い就職率の維持
- 学生募集力の強化**
- ①駿大ブランドの充実と活用 ②入試データの分析と活用 ③効果的な入試広報活動の展開
 - ④秋学期入学制度の創設 ⑤新方式入試への対応きめ細かい教育
- 学部・学科の再編**
- ①社会・受験生動向の分析 ②コース制再編・新規学部・学科の検討・創設
- 教学ガバナンスの推進**
- ①自己点検評価の実施及び外部評価の受審 ②適切な情報公開 ③「教職協働」の推進
 - ④効率的な教学運営体制の確立 ⑤教員評価制度の整備 ⑥グランドデザイン2021による改革の実施

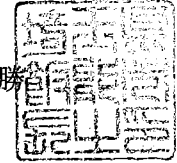


グランドデザイン2021
開始後3年までの成果を
もとに、その改善状況
を点検し、必要に応じて修正

対応

文部科学大臣 殿

飯能市長 大久保



駿河台大学スポーツ科学部スポーツ科学科の設置について（嘆願）

初春の候、貴職におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

平素より、本市教育文化行政につきましては格別の御指導を賜り厚く御礼申し上げます。

貴職の御高配によりまして、昭和62年4月、駿河台大学法学部が創設され、その後、経済経営学部、メディア情報学部、現代文化学部、心理学部の各学部と、さらに大学院の総合政策研究科、心理学研究科の各研究科の認可をいただきました。その結果、本市の将来都市像である、緑と清流を基調とした教育環境に恵まれた文教住宅都市として進展してまいることができました。

さてこの度、駿河台大学では、現代文化学部現代文化学科を改組し、新たに「スポーツ科学部スポーツ科学科」の設置を計画しております。

同学部の設置目的である、スポーツ科学の理論的な知識に基づいた健康の維持増進や、スポーツ教育の実践並びにスポーツによる地域の活性化に貢献できる人材の育成は、本市へも好影響をもたらすものと期待しております。これは、国民がスポーツの力によって豊かで健康的な生活を送ることに寄与するものであるとともに、生き生きとした活力ある社会の醸成を目指す時代の要請にも合致しております。

また、幼少期からの身体運動の習慣化や、中・高年期の健康づくりの推進など、スポーツ分野における市民の要請が多様化している中で、同学部の設置によって、「駿河台大学と飯能市との連携に関する基本協定（平成23年11月11日締結）」に定める「地域文化・教育・スポーツ活動の発展と振興」事項において更なる連携が期待できるとともに、本市が目指す「誰もがスポーツ・レクリエーションに親しみ、主体的に健康づくりが進められるよう生涯スポーツの振興を図る」取組にも大きな効果をもたらすものと確信しております。

駿河台大学が本市及び近隣市町村の総合的学術教育、研究の中心的存在としてさらに発展するため、スポーツ科学部スポーツ科学科の設置につきまして、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

スポーツ科学部カリキュラムツリー

アドミッションポリシー

- ① 高等学校までの基礎的な知識や技能を身につけている。
- ② 論理的思考力を持ち、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- ③ スポーツ(課外活動等)に興味を持ち、諸活動を通じて、自ら学び試行し行動することができる。

カリキュラムポリシー

1. 全学共通に定める「駿大社会人基礎力」を修得するための科目を「共通教養科目群」とし、スポーツ科学の理論的な知識や成果を学習する講義科目及びスポーツの実践力、指導力、企画力等を養う演習・実習科目を「専攻科目群」とし、修得した知識を組み合わせ合わせた総合的な視点からスポーツをとらえ、課題を発見し解決する能力を養う科目を「演習科目群」として教育課程を編成する。
なお、履修方法としては、Semester制を導入し、学習モデルを提供し、それに相応しい科目の履修を可能とする。
2. 教育課程を以下の科目に分類し、必要な科目を配置する。

<共通教養科目群>

- ① 教養基礎・教養発展科目には基礎的な教養知識・技能を身につけるとともに、現代社会の様々な課題を考察するための科目、地域科目には地域社会を理解し実践的に学ぶための科目を配置
- ② 外国語科目には、外国語の運用能力と異文化理解を高めるための科目を配置
- ③ キャリア教育科目には、社会人としての就業意識や職業理解を高めるための科目を配置

<専攻導入科目>

- ④ 専攻導入科目には、専攻科目を学ぶ上での入門的な知識・技能を身につけるための科目を配置

<専攻基幹科目>

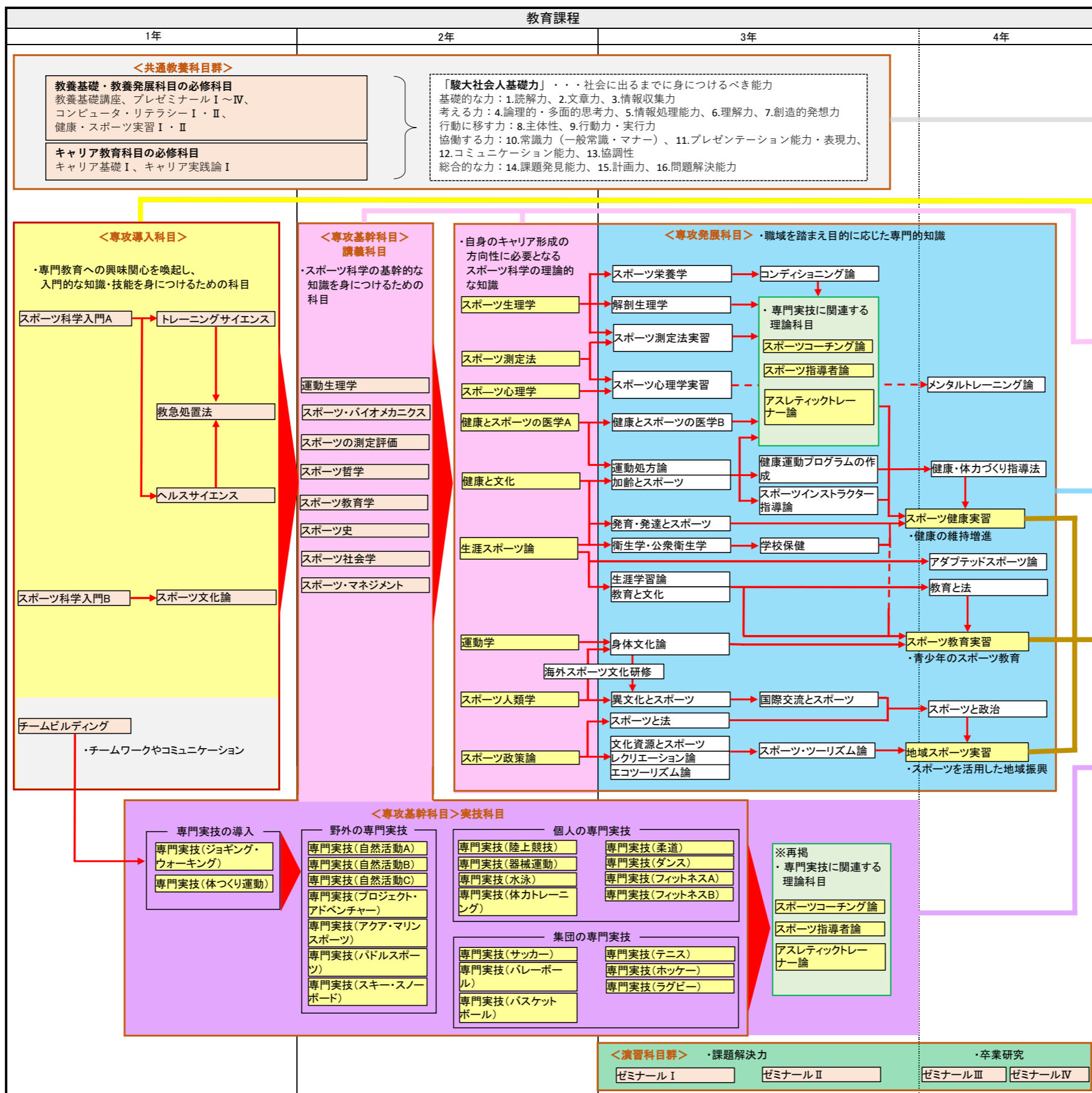
- ⑤ 専攻基幹科目には、講義科目としてスポーツ科学の基幹的な知識を身につけるための科目及び実技科目としてスポーツの技能を身につけるための科目を配置

<専攻発展科目>

- ⑥ 専攻発展科目には、健康の維持増進に寄与するスポーツに関する知識を有するための科目、生涯スポーツ時代に対応する青少年のスポーツ教育に関する知識を有するための科目、スポーツを地域振興に活用する知識を有するための科目を配置

<演習科目群>

3. 少人数によるゼミ教育は、3年次の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」、4年次の「ゼミナールⅢ・Ⅳ」を配置し、一貫性のある総合的な学習を保証する。
4. スポーツ科学の理論的学習を基礎として、スポーツの実際を学校、地域等のスポーツ現場で体験するための科目として、3年次に「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」を配置する。
5. 各科目における講義内容・到達目標・学位授与方針との関連・成績評価方法をシラバス等で明示したうえで、公正かつ厳正に評価を行う。



ディプロマポリシー

主体性、積極性、協調性、リーダーシップ等の他者と協働するために必要な適性を有している

スポーツの意義や価値について理解している

スポーツ科学の理論的な知識を理解している

生涯スポーツ時代に対応する青少年のスポーツ教育、高齢化時代に対応するスポーツによる健康の維持増進又は地域振興に活用する知識を有している

学校、地域等でスポーツを企画・指導する能力を有している

スポーツ科学の理論に基づいてスポーツを指導する能力を有している

修得した知識を組み合わせ合わせた総合的な視点からスポーツをとらえ、課題を発見し解決する能力を有している

養成する人材像

スポーツ科学部では、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、スポーツ科学の理論的な知識に基づき、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材を養成する。

想定される進路・就職先

スポーツ科学部の特徴を生かした卒業後の進路先として次のものが挙げられる。

公共スポーツ施設・民間スポーツクラブ・健康増進施設・スポーツ団体などの指導者、中学校・高等学校における指導者(保健体育教員)、スポーツ教育関連企業の社員、地域スポーツ及び健康スポーツの指導者、地域の政策立案者(公務員)、NPO等の職員、JA等の地域拠点企業の職員、スポーツツーリズム等の観光産業の従事者、スポーツ施設の運営・管理者等

茶枠は科目区分

必修科目

選択必修科目

スポーツ科学部の卒業要件

科目群		要件単位	条件内容	条件科目	
共通 教養 科目群	教養基礎科目	18	7科目10単位必修	教養基礎講座 プレゼминаールⅠ プレゼминаールⅡ コンピュータ・リテラシーⅠ コンピュータ・リテラシーⅡ 健康・スポーツ実習Ⅰ 健康・スポーツ実習Ⅱ	
	教養発展科目	10	2科目4単位必修	プレゼминаールⅢ プレゼминаールⅣ	
	地域科目	4	—	—	
	外国語科目	必修外国語	8	第1外国語：英語または日本語 (留学生のみ)必修 第2外国語：母語及び第1外国語以外の1言語4単位必修	英語 日本語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語
		選択必修外国語	2	第1外国語または第2外国語として選択したいずれか1言語2単位選択必修	—
		自由選択外国語	—	—	—
キャリア教育科目	6	2科目4単位必修	キャリア基礎Ⅰ キャリア実践論Ⅰ		
専攻 科目群	専攻導入科目	13	7科目13単位必修	スポーツ科学入門A スポーツ科学入門B 救急処置法 トレーニングサイエンス ヘルスサイエンス スポーツ文化論 チームビルディング	
	専攻基幹科目	講義科目	8科目16単位必修	運動生理学 スポーツの測定評価 スポーツ哲学 スポーツ社会学 スポーツ・バイオメカニクス スポーツ教育学 スポーツ史 スポーツ・マネジメント	
			1科目1単位選択必修	専門実技(ジョギング・ウォーキング) 専門実技(体づくり運動)	
		実技科目	1科目1単位選択必修	専門実技(水泳) 専門実技(体カトレーニング) 専門実技(陸上競技) 専門実技(器械運動) 専門実技(フィットネスA) 専門実技(フィットネスB) 専門実技(柔道) 専門実技(ダンス)	
			2科目2単位選択必修	専門実技(サッカー) 専門実技(バレーボール) 専門実技(バスケットボール) 専門実技(テニス) 専門実技(ホッケー) 専門実技(ラグビー)	
			1科目1単位選択必修	専門実技(自然活動A) 専門実技(自然活動B) 専門実技(プロジェクト・アドベンチャー) 専門実技(アクア・マリンスポーツ) 専門実技(パドルスポーツ) 専門実技(自然活動C) 専門実技(スキー・スノーボード)	
	専攻発展科目	5科目10単位選択必修	スポーツ測定法 スポーツ心理学 健康とスポーツの医学A 運動学 スポーツ生理学 健康と文化 スポーツ政策論 生涯スポーツ論 スポーツ人類学		
		1科目2単位選択必修	スポーツコーチング論 スポーツ指導者論 アスレティックトレーナー論		
1科目1単位選択必修		スポーツ健康実習 スポーツ教育実習 地域スポーツ実習			
自由選択単位	4	専攻基幹科目(実技科目)及び専攻発展科目の卒業要件単位を超えた修得単位			
演習科目群	8	4科目8単位必修	ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ		
合計		124			

「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」の履修条件…専攻導入科目のすべて(7科目13単位)を履修し、専攻基幹科目(講義科目)のすべて(8科目16単位)を履修し、専攻基幹科目(実技科目)のうち「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか1科目1単位を含む3科目3単位以上を履修した上で、進路に応じた科目として「スポーツ健康実習」は「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康とスポーツの医学A」「健康と文化」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。
「スポーツ教育実習」は「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。
「地域スポーツ実習」は「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。